

平成26年度

京都府立大学全学FD報告書  
(概要版)

教務部委員会FD部会

## 【教務部委員会 FD 部会】

### 全学 FD 活動報告

各学科、教養教育センター、キャリアサポートセンターでおこなわれた FD 活動の報告書をもとに、それぞれの学科・専攻での取り組みをまとめることにしたい。

#### 学部における FD 活動

各学科からの報告は、かつては「学生による意見調査」の分析が中心であったが、教育内容の多様性を受けて、それぞれの学科専攻が直面している問題を積極的に取り上げる報告が多くなった印象がある。いずれの学科もそれぞれ独自に FD 集会（会議）を実施し、カリキュラムの課題、資格制度への対応、学生への指導方法の改善など、実質的な取り組みがおこなわれている。この傾向は昨年度からも認められるが、FD 活動の一環としてカリキュラムの改善がいつそう定着しつつあると言える。よりよいカリキュラムを考えていくために何をすればよいのかという課題は、FD 活動の永遠のテーマとも言えるであろう。

学科あるいは学部独自の FD 集会を催した例として、公共政策学科が昨年に引き続いて「ギャップイヤー」についての集会（3月2日開催）を実施したことが挙げられる。このような特定の問題についての取り組みは、全学に向けて紹介されることも必要となろう。また福祉社会学科では、卒論指導について学生への調査を実施し、それに基づく教員どうしの意見交換がおこなわれている。卒論指導については、農学生命科学科が「卒業論文・専攻科目実験の着手条件」を新たに設定しており、きめ細かな指導への取り組みが看取される。

学科それぞれの目下の課題についても FD 活動として取り組まれており、食保健学科では、実験・実習を直前に控えた 2 回生を対象に「感情知能と行動特性・遂行能力」と「ストレス耐性」の 2 つのキーワードを軸としたアンケート調査を実施し、今後の授業改善に向けた基礎データの取得をおこなっている。また、農学生命科学科が学生実験用の顕微鏡の一新を FD 会議で決定するなど教育環境の整備もはかられている。学部大学院の連携もまた学科を横断する課題であるが、環境科学専攻ではアンケートが実施されたように一定の取り組みがある。

新任教員の研修も FD の取り組みに含まれるが、公共政策学部では就任予定の 4 人の教員について、アドミッション・ポリシー、カリキュラム・ポリシー、ディプロマ・ポリシーや学部のカリキュラム等を周知する研修会を実施している。

#### 大学院における FD 活動

大学院については、ほとんどの専攻において FD 活動としての教員の会議を実施しており、さまざまな問題点が話し合われている。それに加えて文学研究科の国文学中国文学専攻や史学専攻のように大学院生と教員が集まって集会を実施した例もあり、カリキュラムや授業改善の問題にとどまらず、研究教育環境について広く意見交換がされている。